

■児童・生徒の学力の状況

○令和6年度の学校評価では、「自分で考えて問題を解決するような力がついてきている。」の項目で、「あてはまる」が43%だった。このことから、「主体的に考える力」の定着が十分とは言えない。また、一部の児童には探究的な学びが浸透しているが、全体としてはまだ十分に広がっていない。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○子供自身が、学習課題をつくったり、学習計画を立てて学習を進めていったりするなどの活動を増やしていき、自分で考えて課題解決ができるように取り組む。
○「自分はどうか考えたか」「どう解決したか」を言語化する機会を設け、自己認識を高める。
○ICTを活用して、自分の考えを視覚的に表現し、他者と共有・比較することで多様な視点を得る。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

「できた」「分かった」「楽しい」などの充実感を感じることができるときを意図的に計画的に設定し、子供一人一人が、自己決定をして課題解決に取り組んだり、多様な集団の中で協働的に活動したりするなど、主体的に学ぶ環境づくりを進める。

【個別最適な学びと協働的な学びを往還する学習活動の一体的充実】

ア 子供一人一人の実態（特性や課題）に応じた学習活動の展開

イ 子供が自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整できるようにする。

ウ Chromebook等、ICT機器を活用した学習活動の展開

※ アイウの視点を基に、自由進度学習や自己調整学習等、子供が主体的に学び、教師は伴走者となる授業の構築を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組

○各教科等の授業において、学習課題の設定から振り返りまでの学習プロセスを定着させる。

○児童が自ら課題を見出し、学習計画を立てて主体的に学ぶ姿を育成することで、自律的な学びと課題解決力の向上を図る。

視点2

読み解く力の育成

○児童が自らの学習を「見通し→実行→振り返り→調整」するプロセスの中に、読解・思考の活動を意図的に組み込む。

○ペアやグループで読み解いたことを共有することで、読み解く力の高まりと自己調整を促進する。

視点3

総合的な学習の時間との連携

○総合の特性を活かしながら自己調整学習を促進する。具体的には、「自分ごととして問いを立てる→探究の見通しを立てる→探究活動の中での自己調整→振り返りと次へのつながりを考える」プロセスを辿るよう促す。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進

○学びのエリアのめざす子ども像「自律」「協働」をテーマにした授業実践・協議を行い、学習指導に生かす。

○小中の連携を図り、教職員が小中学校の読み解く力の育成についての理解を深めることで、中学校へのギャップを軽減する。

カリキュラム・マネジメントの推進

○生活科、総合的な学習の時間における探究的な学習活動を充実させる。

○地域について学ぶ学習活動について、6年間を見通して計画する。

○地域を教科書（地域で学ぶ 地域に学ぶ 地域を学ぶ）とし、地域を愛する心と態度を養う活動を充実させる。

ICT環境の適切な維持と活用
個別最適な学び・協働的な学びの実現

○学習計画・進捗管理をGoogleスプレッドシートで可視化し、教師が伴走する。

○オクリンクやPadletで「問いの共有」「意見の可視化」「相互フィードバック」をする。

○ルーブリックやポートフォリオを活用し、プロセス評価と自己調整を重視する。

